

## 第7回 昭和の森親子たんぼ教室

### 田植え

佐野 由輝（大網白里市）

日 時：2018年4月29日（日）9:30～12:00 天候：晴れ

参加者：30名（大人17名、子ども13名、12家族）

担当指導員：佐野由輝、山田益弘、花島伸美、山下美佐子

ビオトープの会：西川 章

もうすっかり、昭和の森の景色になじんできた畠で、30名の親子が参加して、田植えを行いました。まずは、この畠を管理しているビオトープの会の西川さんに田植えの指導をしてもらいました。参加した子どもたちのほとんどは、初めて体験ということで、熱心に西川さんの話に耳を傾けていました。

いよいよ3つの班に分かれて、田植え開始です。田んぼの泥の感触に驚いたり、ぬかるみに足を取られて、思うように前に進めなかつたり、最初は苦労していましたが、すぐにコツを覚えて、親子で仲良く田植えを楽しんでいました。そして、参加者みんなで協力して、田んぼの隅々まで、イネの苗をきれいに植えることができました。まだまだかわいいイネの赤ちゃんですが、栄養満点な昭和の森の水と太陽のエネルギーを十分に浴びてすくすくと成長してほしいですね。

田植えが終わった後は、田んぼの生き物観察会。カエルやオタマジャクシ、メダカ、ザリガニ、カワニナ、トンボのヤゴ等、たくさんの生き物を発見して、子どもたちも大喜び。中には初めてカエルやザリガニに触る子どももいて、最初はおそるおそる指を近づけていましたが、何とか直接触れることができると、うれしそうな顔をしていました。みんなが田んぼから出た後、水の中を気持ちよく泳ぐヤマカガシの姿も見ることができました。ヤマカガシは、毒蛇であり、危険な動物ではありますが、こうした生き物が生息していることも、昭和の森の田んぼが、生物多様性の豊かな環境であるという証拠でもあります。

生き物観察会の後、生き物と生き物との関係、どうして昭和の森の田んぼにはたくさんの生き物たちが生息しているかについて説明しました。いつもでも豊かな自然が残るよう、みんなで守っていきたいですね。そして、紙芝居を使って、今日植えたイネの苗が今後、どのように成長していくか、さらに、みんなが植えた苗からどれくらいのご飯が作られるかなどについて説明しました。子どもたちには、毎日食べているご飯が、いかに大切なものであるかを親子田んぼ教室を通して感じてほしいですね。

最後に、6月に草取り、9月に稲刈りという今後のスケジュールを伝え、次回までに大きく成長していることを祈って、終了しました。

